



師弟の生命は 永遠に若い

高原の夏空はひととき青く、緑がまぶしい。湧き上がる雲の中から、浅間山の頂が顔を出した。今月、長野研修道場を訪れた池田名誉会長が、その一瞬をカメラに収めた。

長野と浅間山——戸田第2代会長との、忘れ得ぬ思い出が詰まった場所である。1957年（昭和32年）8月、最後の夏を、共に長野で過ごした。そして、群馬にまたがる浅間山の溶岩跡「鬼押出し」へ同道し、広布のロマンを語り合った。

8月は恩師と巡り合い、無上の「師弟不二の旅」を開始した月である。8月24日は、名誉会長の入信記念日。47年（同22年）の夏、恩師と出会って10日後の、19歳の決断だった。

「私の心には、常に戸田先生がおられる。今でも、毎日、対話している。心に、この原点があるから何も迷わない」と名誉会長。

心に師弟という光がある限り、青春は不滅である。その人生は、幸福の曲に包まれている。

空には、鳥の飛ぶ道がある。
海には、魚の泳ぐ道がある。
人には、人の歩む道がある。
人間が、最も人間らしく、
価値ある人生を歩み、
向上していくための道が、
「師弟の道」である。

人間だけが
師弟をもつことができる。
師弟の道によって
自分を高めていける。
ここに人間の究極がある。
後継の青年たちには、
伝え遺せる限り
私のもっているものを
すべて伝えたい。
一切の後事を託したい。
その私の心を、
弟子たる君たちは
深く知ってほしいのだ。

若き日に人生の師に巡り合い、
真実の人間の錬磨を
受けることは
青春の最高の誉れである。
この人生の真髄がわかれば、
富や名声などの飾りに
惑わされることもないし
何ものをも恐れることはない。

真剣勝負の出会い
人の心を変え、生命を変える。
さらに地域を変え、社会を変え、
世界をも大きく変えていく。

師匠と近くにいるから
偉いのではない。
師匠の「心」を身に体して、
現実の上に
実現していく人が偉い。
どんな場所であれ
どんな立場であれ
その自覚があれば、
立派な弟子の戦いはできる。
「心」が大事なのである。

正しき師匠を求め
師の心に応えんとする
弟子の一念にこそ、
前進と勝利の本因が刻まれる。
師弟に生き抜く生命は
永遠に若い。
その人が
永遠の青年なのだ。